

永く続く伝統の一瞬をつなげていきましょう



寒い日でしたが懐山のおくなくいは泰蔵院内でおこなわれるため他の民俗芸能の「寒い、眠い、煙い」がなくて緩やかな時間の流れと共に開かれた。

今年は清竜中学校生徒の皆さん9人が参加していた。笛での参加のつもりであったが学校では「懐山のおくなくい」の舞もいくつか披露していたので、正月の本番で皆様の前で「片剣の舞」を披露することとなったことは生徒さんも、学校で学んだこのお祭りの大切さと重要性を肌身で感じ満足したようである。

懐山の
おくなくい
保存版 04号



泰蔵院で行われる、最初の「三々九度の舞」の時には、沢山の人が集まっていた。この後も、清竜中学校の生徒さんや西浦田楽の副会長や川名のひよんどりの会長他4人と静岡の民俗学者の八木洋行氏、遠くは仙台から2人、毎年正月はここから始まると国会議員の



木内実氏も訪れた。浜松・静岡各地から国指定の民俗文化財を見ようと一般の人も多く訪れてくれた。

三々九度の舞の後、香芝を啜え伽藍堂に行き伽藍祭りをを行う。

伽藍祭りは元々この地にいる昔からの神様の祭りとして本祭り「懐山のおくなくい」が始まる前に行う行事である。伽藍祭りを先にやると無事にお祭りが出来ることをお願いする。懐山には無いが伽藍しずめを行うところもある。



伽藍祭りをしようとして道路に溢れた見学者たち

この伽藍祭りは各地の祭事には入っているところが多く、伽藍祭りだけを行っているところもある。

※寺野のひよんどりは始めに伽藍祭り、川名のひよんどりは終わりに伽藍しずめ、久留女木の万歳楽は伽藍さまのお祭りが重要になっている。

堂内に戻り本祭りが始まる懐山のおくなくいは笛と太鼓で各舞が進められているが笛人が一人と寂しい限りであった。そこに登場した清竜中のたのもしい生徒さんたちであった。

盛り上げてくれた地域の方々に頭の下がる思いです。



初めての舞でもなりきっていた。

めずらしい演目「やまがたあそび山家田遊び」も復活した。懐山でしかない演目で焼畑で粟を収穫しよう。二人が調子にのり道化のように「とったぞ」「とったぞ」の掛け声で収穫の喜びを演じた。



学校での成果を本番の祭りで発表

来年も本祭り来てもらえる事を期待したい。



田楽や甘酒、汁かけ飯まで用意していただいた



今年の汁かけ飯は上品なお椀でいただいた

皆さんが最後の汁かけ飯をいただいているとき、元の女性たちは一生懸命かたづけに入っていた。「ありがとうございました」

懐山みんなのお祭りに向けて発信！



これまでと雰囲気

違うね

お寺に近づくこと小さいながら幟が揚がっているし、入口ではお茶の接待をしてくれているので、意気込みが違う雰囲気誘われて、皆さん参詣を始められたようです。

拭き清められてご開帳された本尊阿弥陀如来様と脇侍の不動明王様と毘沙門天様がゆらめくお灯明の灯影に美しいお姿でお立ちなつておられます。参観者もこれまでの倍近い数に上っています。

始まる前から手作りのこんにやく田楽や甘酒も振る舞われ、懐山の温かなご接待に浸る中で、おくないが始まりました。

今回は次第を解説しながら進めていったので、参観者もうなずきながら鑑賞してくれていました。ここまで盛り上げてくれた地域の方々に頭の下がる思いです。



面袋まできて

二十近い貴重なお面がこれまで裸のまましまわれていましたが、石神の松野祥子さんと大乗とき子さんが作ってくれました。鬼の面を入れる大きな袋から小さなものまで含めて二十近い面袋の作成は大変だったと思います。祥子さんは故郷



懐山のおくなくないのためにご奉仕できてよかったといってくださいました。そして、「このお仕事をさせてもらったら足の痛みが直ってしまったようです。阿弥陀様のご加護でしょうか」ともおっしゃっておられました。